

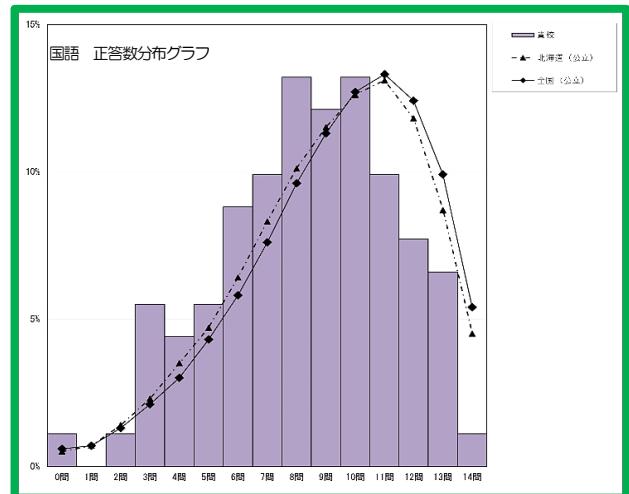
令和7年度 全国学力・学習状況調査

本校の結果について

保護者・地域の皆様には日頃より本校の教育活動にご支援・ご協力を頂き、誠にありがとうございます。さて、4月に6年生を対象に実施しました、全国学力・学習状況調査の本校の結果と分析についてお知らせします。この調査は、全国的な児童生徒の学力並びに学習状況を把握し、今後の学習指導に役立てることを目的として行っています。本校もそれを踏まえ、調査結果を学力向上の取組に生かしています。

1. 平均正答率の結果（全国平均との比較で）

全国平均との比較	
国語	低い
算数	低い
理科	低い

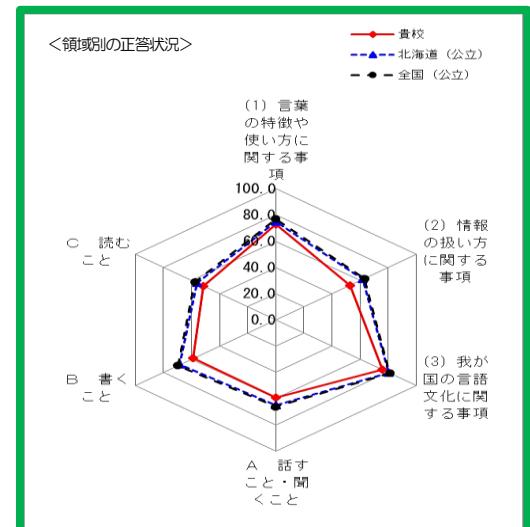


2. 教科ごとの結果・分析（全国平均との比較で）

領域	全国平均との比較
話す・聞く	下回っている
書く	下回っている
読む	下回っている
言語事項	下回っている

国語

問題形式	全国との比較	無解答率
選択式	下回っている	0.5%
短答式	やや上回っている	1.5%
記述式	下回っている	2.2%



★国語全体として・・・全国平均よりも「低い」結果となりました。

★正答数別人数から・・・

14問中10問以上（正答率70%以上）正答している児童は約39%。14問中4問以下（正答率30%以下）の児童は約12%。下位～中位の子が多い傾向にあります。

★領域（「話す・聞く」「書く」「読む」「言語事項」）別に見ると・・・

「話す・聞く」「書く」「読む」「言語事項」の4領域全てで全国を下回っています。特に、「記述式」問題の正答率が低いです。答えるための条件に合わせながら、自分の考えをまとめて書いたり、目的や意図に応じて要約したりすることを苦手としています。

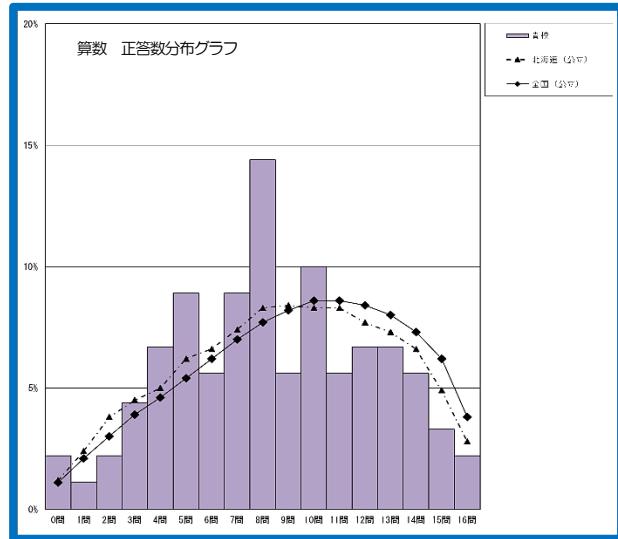
★問題形式で見ると・・・「選択式」「短答式」「記述式」とともに全国を下回っています。特に記述して答えることを苦手としています。

★無解答率で見ると・・・3つの問題形式とも全国より低かったです。特に「選択式」の無解答率は0.5%で、ほぼ全員が答えを書いたことになります。あきらめずに問題に向き合い、答えを導き出したことがうかがえます。本校に限ったことではありませんが、「記述式」の問題に対しては、無解答率が高くなる傾向にあります。

算数

領 域	全国平均との比較
数と計算	下回っている
図 形	やや下回っている
測 定	下回っている
変化と関係	下回っている
データの活用	やや下回っている

問題形式	全国平均との比較	無解答率
選択式	同程度	1.5%
短答式	下回っている	2.2%
記述式	下回っている	3.3%



★算数全体として・・・全国よりも「低い」結果となりました。

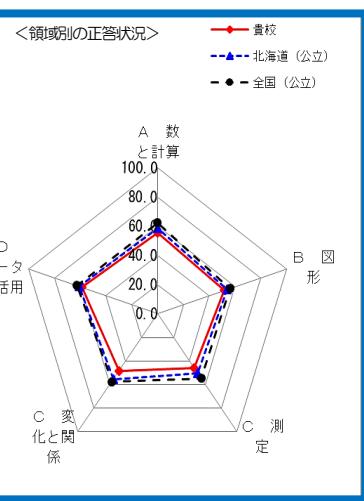
★正答数別人数から・・・16問中12問以上(正答率70%以上)正答している児童は約25%。16問中4問以下(正答率30%以下)の児童は約17%おり、国語よりも低位の子が多くいます。

★領域(「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」)別に見ると・・・「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」5領域全てで全国を下回りました。特に「数と計算」では、分数に関する問題の正答率が低い結果となりました。

★問題形式で見ると・・・「選択式」は全国と同程度で、「短答式」と「記述式」は全国を下回りました。

★無解答率で見ると・・・

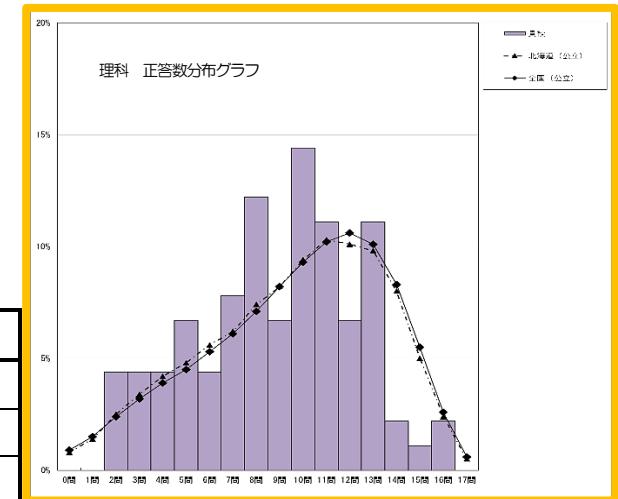
3つの問題形式とも全国よりも低かったです。算数でもあきらめずに取り組んだことがうかがえます。「記述式」の無解答率は約3%で、国語の「記述式」よりも無解答率が高くなりました。



理科

領 域	全国平均との比較
「エネルギー」を柱とする領域	下回っている
「粒子」を柱とする領域	下回っている
「生命」を柱とする領域	同程度
「地球」を柱とする領域	やや下回っている

問題形式	全国平均との比較	無解答率
選択式	やや下回っている	0.6%
短答式	下回っている	1.8%
記述式	やや下回っている	2.2%



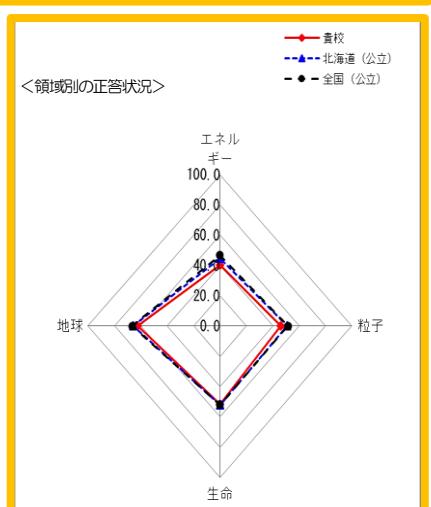
★理科全体として・・・全国よりも「低い」結果となりました。

★正答数別人数から・・・17問中12問以上(正答率70%以上)正答している児童は約23%。17問中5問以下(正答率30%以下)の児童は約20%で、低～中位が多い傾向にあります。

★領域(「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」を柱とする領域)別に見ると・・・「生命」を柱とする領域は全国と同程度です。「エネルギー」「粒子」「地球」を柱とする領域は全国を下回りました。

★問題形式で見ると・・・「選択式」「短答式」「記述式」とも全国を下回りました。

★無解答率で見ると・・・3つの問題形式とも全国よりも低かったです。あきらめずに問題に向き合い、答えを導き出したことがうかがえます。「記述式」の問題に対しても無解答率はそれほど高くありませんでした。



3. 児童質問紙の結果から

- 自分にはよいところがあると思っている子の割合は約 93%。全国平均よりも高い。
 - 自分にはよいところがあまりないと思っている子は約 7%。
 - 自分にはよいところがないと思っている子はいない。
 - 「当てはまる」と答えた子の割合が昨年度より増加（28.9%→53.3%）。
- 将来の夢や目標をもっている子が約 80%いる。
- 国語の勉強が好きな子～約 53% 算数の勉強が好きな子～約 39% 理科の勉強が好きな子～約 86%
 - 算数が好きではない子が約 60%もいる。
- 約 9 割の子が学校に行くのが楽しいと思っている。
 - 学校に行くのが楽しくないと思っている子が約 1 割いる。
- ICT の活用により、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができたり、友だちと考えを共有したり比べたりしやすかったりすると思っている子の割合が約 90%いる。
- 平日に家庭学習で 1 日当たり 2 時間以上学習している子の割合は約 15%（全国が約 25%）。30 分以上 1 時間未満が最も多く、40%。「目安となる学習時間」を達成できている子の割合は約 5 割。
- 休みの日に学習する時間は、1 時間未満が最も多くて 40%。全くしない子も約 12%（全国が約 18%）いる。3 時間以上学習する子の割合は約 4%（全国が約 12%）となっている。



- ・自己有用感は依然として高い傾向にあります。今後も「わたしありいな！きみってすごい！」を全校で進めています。
- ・学校での活動を楽しみにしており、友達と協力しながら生活していると考えられます。
- ・将来の夢や目標を多くの子がもち、学習に励んでいますが、算数が好きではない子が多くいるという状況にあります。これからも「わかる」授業、「学びが深まる」授業を目指していきます。
- ・家庭での学習時間は、1 時間未満の児童が多く、休日だと学習する時間が少ない傾向にあります。また、年々、学習時間が減少していっています。「目安となる学習時間」を達成することを目標に、家庭学習がより充実したものになるようにしていきます。
- ・授業や家庭学習で ICT を効果的に活用することにより、子どもたちに必要な資質・能力を確実に育成していきます。

4. 今後の学力向上に向けて

○学習に向かう基本的な姿勢を育てます・無解答をゼロにします

- ・学習ルールやノート指導の一層の定着を図ることで学習環境を整え、学習する意欲を喚起します。特に、「話の聞き方」に関して重点的に取り組み、子どもたち一人一人が落ち着いて学校生活を送ることができるようにしていきます。
- ・学校でも家庭でも「一人一台端末」を効果的に活用していきます。
- ・あきらめないで問題に取り組もうとする気持ちを育てるとともに、基礎的・基本的な学力を定着させることによって、あらゆる問題に対応できる力を育てます。

○書く力を高めています

- ・授業中は、自分の考えを表現したり、まとめの文章を書いたり、学習の振り返りを書いたりするなど、文章で表現する活動を大事にしていきます。
- ・水曜日の S タイムでは、1、2 年生で「視写」に取り組みます。

○「ICT」や「対話」を取り入れた、「子ども主体」の授業を進めていきます

- ・友だちと話し合ったり考え方を共有したりする「対話」を取り入れた学習を積極的に行うことで、子どもたちがお互いに高め合えるようにしていきます。
- ・対話を効果的に行ったり、一人一人が自分なりに課題解決をしていったりするために、ICT 機器を積極的に活用していきます。
- ・子どもたちが ICT を活用しながら、調べたり、まとめたり、対話したりする時間を十分に確保した「子ども主体」の授業づくりを進めていきます。

- ・水曜日のS タイムでは、3年生以上で「タイピング」に取り組み、ICT を活用するための基礎的なスキルを身に付けさせていきます。

○算数における基礎的・基本的な学力の定着を図ります

- ・算数の授業では、習熟の時間を充実させることで、繰り返し学習させます。
 - ・日常生活の場面に置き換えたり、式や言葉で書き表したり、説明したりするような学習を進めます。

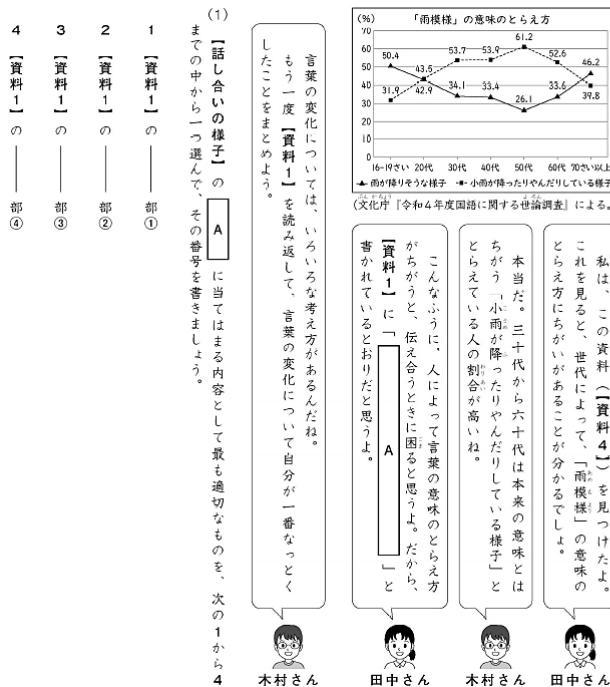
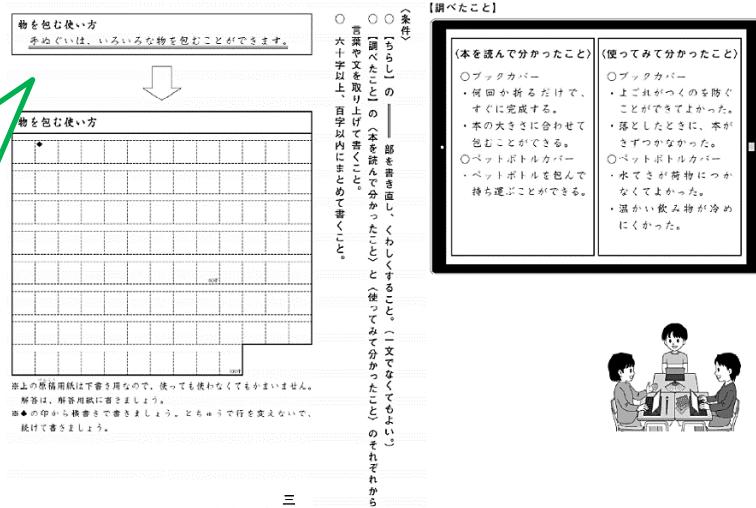
○家庭との連携を大切にします

- ・家庭と連携し、規則正しい生活習慣づくりに努めます。
 - ・家庭学習の充実を図る取り組みを行います。
～タブレットの毎日持ち帰り・家庭学習の表彰・「パワーアップウィーク」の取り組み
 - ・定期的に学力向上通信「パワーアップ」を発行し、家庭と学校との連携を図ります。

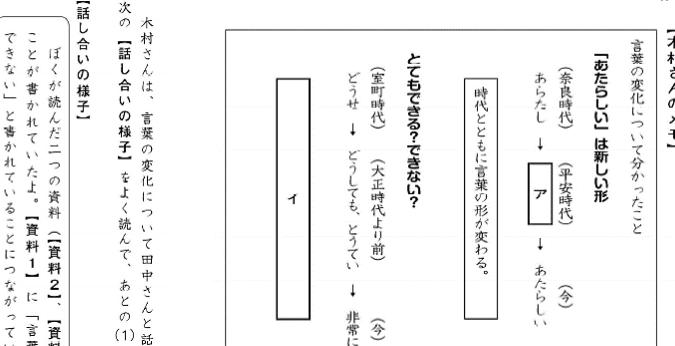
5. 正答率が低かった問題と解答の状況

(国語)

「目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかを見る」問題です。<条件>の1つめの、【ちらし】の二重傍線部分を詳しく書き直すことはできているが、<条件>2つめは記述することができていない誤答が多くかったです。文章に書かれていることを基にまとめることができないと言えます。この問題の正答率は約46%でした。全国の正答率と比べると10%以上低くなっています。



「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる」問題です。正答率は、約40%でした。正答は3ですが、2と答える誤答が多かったです。Aの部分の前の文章に着目することができず、コミュニケーションの食い違いに関して捉えることができていないと考えられます。文章の中から必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりすることが重要です。



「事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかをみる」問題です。正答率は約37%で、全国よりも10%以上低い結果となりました。1が正答ですが、本校児童の誤答としては、「世代によってものの呼び方がちがう」と捉えてしまった、3が多かったです。文章全体の構成を捉えて要旨を叙述を基に把握することができていないということが言えます。

算 数

(2) あいりさんは、自分たちが住んでいる都道府県別のブロックリーの出荷量が、増えたかどうかを調べています。調べていると、2013年と2023年について、次のグラフ2とグラフ3を見つけました。

1 グラフ2とグラフ3を見つけたけれど、どちらか1つのグラフを見れば、都道府県別のブロックリーの出荷量が、増えたかどうかがわかります。

2023年の都道府県別のブロックリーの出荷量が、2013年より増えたかどうかを、下のアとイから選んで、その記号を書きましょう。

また、その記号を選んだわけを、言葉や数字を使って書きましょう。そのとき、どちらのグラフのどこに着目したのかがわかるようにしましょう。

ア 2023年は2013年より増えた。

イ 2023年は2013年より減った。

「都道府県 A のブロックリーの出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、そのわけを書く」問題です。正答率は約 28% でした。グラフ2の出荷量の割合に着目してしまい、出荷量が減ってしまったと判断し、イを選んでしまっている誤答が多かったです。記述式の問題ですが、無解答率は 0.0% で、全員が答えを書くことができました。

(4) わかなさんたちは、図3のような五角形アイウエオの面積の求め方を考えています。

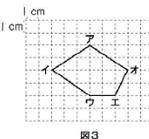


図3

わかなさんたちは、三角形や四角形の面積の求め方が使えるように、図3の五角形アイウエオを、2つの图形に分けようとしています。



私は、直線イオをひいて2つの图形に分けようと思います。



私は、直線ウオをひいて2つの图形に分けようと思います。

わかなさんとゆうさんのどちらの分け方でも、五角形アイウエオの面積を求めることができます。

五角形アイウエオを2つの图形に分け面積を求めるとき、あなたならどちらの直線をひいて求めますか。2つの图形に分ける1本の直線を、下の1と2から選んで、その番号を書きましょう。

また、2つの图形の面積がどれぞれ何cm²になるか、それらの求め方を、図3の下から必要な長さを調べて、式や言葉を使って書きましょう。ただし、計算の答えを書く必要はありません。

- 1 直線イオ
2 直線ウオ

必要なならば、下の公式を使って考えてもかまいません。

- ・ 長方形の面積=たて×横
=横×たて
- ・ 正方形の面積=1辺×1辺
- ・ 平行四辺形の面積=底辺×高さ
- ・ 三角形の面積=底辺×高さ÷2
- ・ 台形の面積=(上底+下底)×高さ÷2
- ・ ひし形の面積=対角線×対角線÷2

「五角形の面積を求めるために五角形を二つの图形に分割し、それぞれの图形の面積の求め方を書く」問題です。正答率は約 31% でした。图形を二つに分ける直線を選ぶことまではできているが、分けてできた三角形と台形の面積を求める式や言葉を記述できていない誤答が多かったです。ただ面積を求めるだけではなく、どういうふうに考えたのかを表現する学習が大切だと言えます。

理 科

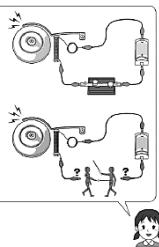
(1) アルミニウム、鉄、銅の性質について、下の1から4までのなかでそれぞれ1つ選んで、その番号を書きましょう。同じ番号を選んでもかまいません。

2

- 1 電気を通して、磁石に引き付けられる。
- 2 電気を通して、磁石に引きつけられない。
- 3 電気を通して、磁石に引き付けられる。
- 4 電気を通して、磁石に引き付けられない。

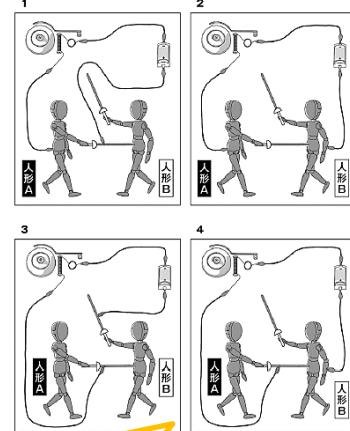
いおりさんは、かね(ベル)が鳴るしくみについて考えています。

スイッチを入れると、
かね(ベル)が鳴るしくみ
になっているね。



スイッチを「人形A」に置きかえ、
人形Aの剣を当てたときだけ、
かね(ベル)が鳴るようにしたい。

(2) 「人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、かね(ベル)が鳴る」のは、どのような回路でしょうか。下の1から4までのなかから1つ選んで、その番号を書きましょう。



「アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ」問題です。正答率は約 13% でした。電気を通さないと考えた、3と4を選ぶ誤答が多くありました。金属の共通する性質として、電気を通すという知識がしっかりと身に付いていないといふことが言えます。

「電気を通す物と通さない物でできた人形について、人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、ベルが鳴る回路を選ぶ」問題です。正答率は約 36% でした。回路の中に電気を通さない「持ち手」が含まれている、3という誤答が多かったです。電気を通すつなぎ方にに関する知識が身に付いていないことが言えます。

(2) ひろとさんたちは、分数のたし算についても、小数で考えたようにふり返っています。

3 まず、みおりさんは、 $\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ についてまとめています。

みおり $\frac{2}{5}$ は $\frac{1}{5}$ の2個分、 $\frac{1}{5}$ は $\frac{1}{5}$ の1個分です。

$\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ の計算は、 $\frac{1}{5}$ をもとにすると、2+1を使って考えることができます。

$\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ は、もとにする数を $\frac{1}{5}$ にすると、整数のたし算を使って計算することができます。

次に、ひろとさんは、 $\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ について考えています。

ひろと $\frac{3}{4}$ は $\frac{1}{4}$ の3個分、 $\frac{2}{3}$ は $\frac{1}{3}$ の2個分です。

もとにする数が $\frac{1}{4}$ と $\frac{1}{3}$ でちがうので、同じ数にしたいです。

$\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ についても、もとにする数と同じ数にして考えることができます。

もとにする数を同じ数にするとき、その数は何になりますか。その数を書きましょう。また、 $\frac{3}{4}$ はその数の何個分、 $\frac{2}{3}$ はその数の何個分ですか。数や言葉を使って書きましょう。

(3) 次の数直線のア、イの目もりが表す数を分数で書きましょう。



分数に関する問題です。(2)は、単位分数のいくつ分かを数や言葉を用いて記述する問題です。正答率は約 9% で、全問題の中で最も低く、全国よりも 10% 近く低い結果でした。「通分する」ということは分かっているが、通分することによって単位分数を見いただすことができない誤答が多かったです。

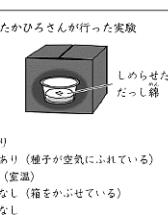
(3)は「1をいくつ分に分けたのか」に着目することができず、分数ではなく小数で答えてしまう誤答が多かったです。計算ができるだけではなく、分数の仕組みや概念についてもしっかりと理解させる必要があります。

たかひろさんたちは、レタスの種子を発芽させようとしています。

3



レタスの種子を発芽させようと思って、水、空気、温度の条件を下のようにしたのに、いつも発芽しなかったよ。



(条件)

- ・ 水あり
- ・ 空気あり（種子が空気に入れている）
- ・ 温度（室温）
- ・ 日光なし（箱をかぶせている）
- ・ 肥料なし

てるみさんは、水、空気、温度のほかにも、レタスの種子が発芽するために必要な条件があるかもしれません。レタスの種子が発芽するために必要な条件を、上の(条件)の中から1つ選んで調べてみたい。

(4) てるみさんは、調べてみたいことをもとに、新たな【問題】を見つけました。てるみさんは、どのような【問題】を見つけたと考えられますか。その【問題】を1つ書きましょう。

「レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気付きを基に、見いだした問題について書く」問題です。正答率は約 23% でした。条件の中の日光や肥料に着目し、記述しているが、「問題」を表すような記述ができていない誤答が多かったです。日常の授業でも差異点や問題点を基に問題を見いだして適切に表現する活動が大切だと言えます。